

ワークショップ報告書

「アメリカの中のハワイ・ハワイの中のアメリカ：二つの文化の相克を越えて」

開催日時：2016年1月30日 13:30～18:00

開催場所：上智大学四谷キャンパス 10号館 10-301会議室

プログラム

第一報告：佐藤 けあき 上智大学大学院 博士後期課程

「ハワイ社会における日系人のリーダーシップ：ジョージ・アリヨシ氏のライフストーリーから」

第二報告：四條 真也 首都大学東京大学院 博士後期課程

「アメリカの中の先住ハワイ人：ハワイアン・ホームステッドの事例から」

第三報告：加藤 恵理 神奈川大学 非常勤講師

「ハワイにおける動物展示の受容」

第四報告：齋藤 祐実 京都大学大学院 博士後期課程

「ハワイとキング牧師の交流：1950年代後半から1960年代にかけて」

第一コメント：李 里花 多摩美術大学 美術学部 共通教育 講師

第二コメント：白水 繁彦 駒澤大学 グローバル・メディア・スタディーズ学部 教授

ワークショップ概要

本ワークショップは、ハワイ社会をアメリカとの相関の中で問い直し、ハワイ社会がアメリカ本土からいかなる影響を受けて、もしくは影響を受けずに発展したかという共通テーマのもと開催された。第一報告では、佐藤がハワイ州知事を12年間務めたジョージ・アリヨシ氏のライフストーリーを例に、アメリカやハワイの変化に乗じて急速に社会的地位を高めていったハワイにおける日系人について論じた。第二報告では四條が、先住ハワイ人についてどのようにアメリカの養子縁組制度と先住ハワイ人に伝わるハーナイという養取慣行を組み合わせ「伝統」を解釈しているかについて論じた。第三報告では加藤が、動物のハンティングをおこなうハワイ出身のハンターについて発表し、ハンティングという行為を通してハンターたちがいかに「ローカル」を解釈しているかなどについてハワイとアメリカ本土との関わりに着目しながら論じた。第四報告では、齋藤が公民権運動とハワイの関わりについて、キング牧師のハワイ訪問やハワイ出身者の公民権運動参加などの出来事を実証的に考察し発表した。

コメントは多摩美術大学の李里花氏から各報告者に対して、アメリカとハワイ社会の相関を考えるのであればハワイにおける事例のみを取り上げるのではなくアメリカ本土との

比較の視点があっても良いのではないかと指摘があった。また本ワークショップのタイトルである「アメリカの中のハワイ」という枠から「アメリカ帝国の中のハワイ」や「グローバル化の中のハワイ」に広げていける可能性が示唆された。

駒澤大学の白水氏からも、各研究を複数の視座 (**range**) で考えハワイ社会を捉えると良いというアドバイスがあった。すなわち **short** (ミクロ=ハワイ内) , **middle** (アメリカーハワイ関係) , **long** (マクロ=国際関係) の視座を持つとまた異なった側面がわかるというコメントであった。ほかには報告者 4 人中 3 人が用いているインタビューの方法論についてのコメントなどがあった。最後にフロアーにオープンにして総合討論となり、多くの参加者から質問やコメントが挙がった。「アロハ」という言葉が使われるようになった歴史的、社会的背景、だれが何のために使用するのかといった文脈についての質問があった。

本ワークショップを通して、複数の事例や時代のアメリカーハワイの連続性・非連続性が明らかになった。また様々な視座からハワイ社会を考察するというコメントなどから、各報告者が今後さらに自身の研究を発展させる可能性を見出し、意義深いワークショップとなった。